



神奈川県環境学習リーダー会

会 報

No. 36 2003年 2004年
12月 1月

役員会報告 (事務局長 山田あや子)

12月役員会

1. 当会がマイアジェンダ団体登録をすることを決定。
2. 県の県民部消費生活課から実践マニュアルの作成依頼があり、当会は受諾を決定。作成者をメール、FAXで公募。(主担当:石丸副代表)
3. 第10回市民環境活動報告会のチラシ内容を石丸実行委員長に一任。当日の役割分担を討議。
4. 助成金制度の制定は役員会で審議することに決定。会報36号に主旨を掲載し、意見交換会などで意見を求める。(別掲参照)
5. 16年度総会の開催は5月15日(土)環境科学センターに決定。
会報37号は発行を4月10日(土)とし、会報と共に総会資料、出欠はがきを同封する。
6. 当会は子供アジェンダ事業を3校で実施する。授業の補助員は実施学校周辺地域の当会会員に依頼する。
平塚みずほ小学校(12/5、12/11実施)
川崎小田小学校(1/23、2月早々予定)
足柄上郡松田小学校(家庭科授業として)
7. 16年度の「環境展」は昨年とほぼ同様の要領で実施することを北村実行委員長が報告。

カット:モモ

中国原産で日本では3月3日のひな祭りの花として親しまれている。花の色の艶やかさ華やかさが女性の美しさを象徴する。

花の時期は4月なので、ひな祭りには温室栽培のものが使われる。

ウメやアズミと同じバラ科サクラ属の仲間。

1月役員会

1. 今年度第2回意見交換会の開催日時・開催場所・テーマを決定。(別掲参照)
2. 総会に提出する規約改正案を討議(下記項目)。(詳細は意見交換会、会報37号)
 - ・事務局所在地の明記
 - ・会員の表記を正会員と賛助会員に区分
 - ・監事役割の追加
 - ・役員会議決事項の詳細追加
 - ・任期満了前の退任役員の後任者選任方法追加
 - ・受託事業の細則追加
3. 報告事項(市民環境活動報告会の報道予定)
 - ・ラジオ日本「くつろぎわいど」の“取れたて神奈川情報”コーナー(2月4日)
 - ・映画館上映の「かながわニュース」で事例紹介

「環境活動助成制度(仮称)」について

事務局長 山田 あや子

K・リーダー会は、環境学習リーダー及び環境実践者養成講座を通して、昨年10月に11期修了の入会者を迎えることが出来ました。現在、K・リーダー会会員の皆様や、各部会が県内の様々な所で活動を進めておりますが、神奈川県の中でも、環境教育や保全活動に取り組む団体として、その重要性が増してきております。

昨年11月に「新アジェンダ21 かながわ～持続可能な社会への道しるべ～」がスタートし、その構想の実現を目指すこれからの神奈川県の環境保全活動を考えた場合、今後もK・リーダー会の役割は大きいものがあると思われまます。

K・リーダー会では、こうした状況を踏まえ、各地域で活動する会員の皆様に支援する目的の「環境活動助成制度(仮称)」を作ってはどうかとの提案があり、役員会で話し合った結果、今後の審議課題に

していくことを決定。早速、地域活動サポート部を中心に検討会を発足しました。

現在、検討会から一案として「表彰規程(素案)」が提出されております。表彰の名称は、「地域活動奨励賞」とし、目的は「県内で会員が環境教育や環境保全活動で中心的な役割を担って、地域に大きく貢献している個人、または団体を表彰することで地域活動を支援する」となっており、対象は「(1)会員個人または会員から構成される団体(2)会員が中心的な役割を果たして活動する団体」です。また、審査基準は「(1)環境保全活動を継続的に実践し、社会に大きく貢献している(2)地域の環境学習に取り組み、環境意識の高揚に多大な業績を挙げている(3)環境保全活動に関する調査、研究を行ない、環境保全のために有効な成果を挙げている」とあります。表彰者は個人・団体とも自薦、(次頁へ続く)

(前頁から)他薦(ただし、他薦は2名以上の推薦者が必要)で推薦書に記載して提出します。選考は選考委員会を設置し、推薦書提出者の中から記載内容と上記の審査基準を勘案して選考、役員会で最終決定をし、表彰状と共に金一封が贈られるとあります。

す。

この件につきましては、皆様からのご意見をお願いするとともに、平成15年度第2回「意見交換会」(16年3月4日開催予定)で討議をしていただき、早期の実施を目指したいと考えております。

15年度第2回意見交換会のお知らせ ！！地球の未来のために！！

私たちのK・リーダー会のあり方をともに考え、活動を発展させるために、下記の通り15年度第2回意見交換会を開催いたしますので多数の参加をお願いいたします。

記

1. 日時：16年3月4日(木)13:00～17:00
2. 場所：ひらつか市民活動センター A会議室
3. 所在：平塚市八重咲町3-3 JAビルかながわ2F
(JR平塚駅 南口1分 広場を出て右側)

4. TEL：ひらつか市民活動センター 0463-21-7517
「議題」

1. 話題提供 清水前代表(20分)
2. K・リーダー会の現状報告
3. 地域活動の現状と環境活動への助成制度新設
4. 規約の改定
5. その他

16年度役員立候補・推薦を受け付けます

平成16年度の総会は5月15日(土)午後開催されることが決まりました。(詳細は次号)

この総会の席で、新しい役員を改選することになりますが、前もって次年度の役員立候補または推薦を皆様から受け付けます。

「K・リーダー会」の役員として運営に携わって下さる方、また、役員に推薦したい方がおられましたら、是非、積極的に事務局までお名前・修了期等をメールまたはFAXでお知らせ下さい。宜しくお

願いいたします。

申出締切り：3月7日(日)

連絡先：

山田 あや子 (事務局長)

〒243-0803

厚木市山際203-4

TEL 046-245-5563

FAX 046-245-5174

メール siro@jeans.ocn.ne.jp

誰にでもできる環境にやさしいくらし実践マニュアル(仮称) プロジェクトスタート！

9期 石丸 博司

12月中旬K・リーダー会の皆様全員にご案内した表記のプロジェクトに下記9名の精鋭メンバーの応募があり、12月末より取り組んでいます。

北村 博子、渋谷 幹夫、清水 幸雄、

早野 木の美、渡辺 進次、山田 あや子

岩下 次郎、市川 文子、石丸 博司(敬称略)

神奈川県県民部消費生活課から「環境にやさしいくらし実践マニュアル」普及版をさらに発展的に「誰にでもできる環境にやさしいくらし実践マニュアル」(仮称)に改訂する作業の依頼を受け、K・リーダー会の受託事業として取り組んでいます。廃棄物・

リサイクル部会が昨年来取り組んできた「エコライフ健康診断」が実ってきたものです。早速年末27日に第1回の会合を持ちプロジェクトチームを編成、「実践プロ」として1月末を目標に短期決戦で取り組んでいます。大変意欲的で年末・年始の宿題もあり、年始は1月6日スタート。討議も大変活発に進んでいます。残り2日間の日程(1月20日、1月30日)で最終原稿まで持ち込む予定です。リーフレットの印刷が出来るのは3月中旬になります。ご期待下さい。(1月18日寄稿)

神奈川県公表事業 平成 15 年度 NPO 等との連携による 「子どもたちからのメッセージ」の概要と実施した小学校の報告

9 期 柳川 三郎

神奈川県において、会報 35 号で掲載の通り「新アジェンダ 21 かながわ」が策定されました。神奈川県では、具体的行動を起こすきっかけとして、小学生に対し「新アジェンダ 21 かながわ」が提示している 30 年後のかながわの将来像やその実現に向けた取り組みについてわかりやすく説明し、持続可能な社会について議論をしてもらう場（ワークショップ）を設定するとともに、そこで出された地域や学校の特色を踏まえた意見をとりまとめ、大人への提言（メッセージ）として 3 月末に新聞に公表する

予定です。

このワークショップを環境教育に実績ある NPO 等に対し募集が 11 月下旬にあり、我が K・リーダー会は応募の結果、12 月 3 日に 3 小学校の受託が決まりました。また当会と関係ある「ふるさと環境市民の会」が 1 校受託しました。事業の実施小学校は県内全地域で 12 小学校です。

最初に実施した平塚市立みずほ小学校の状況について神奈川県環境農政部環境計画課に報告いたしました実施結果をお知らせいたします。

平成 15 年度「子どもたちからのメッセージ」の公表事業実施結果報告書

団体名 神奈川県環境学習リーダー会

1、実施小学校、学年、組	平塚市立みずほ小学校、5 年 1 組・2 組
2、児童数（組ごと）	5 年 1 組 21 名、5 年 2 組 22 名、 合計 43 名
3、ワークショップ実施 年 月 日	第 1 WS、平成 15 年 12 月 5 日（金） 第 2 WS、平成 15 年 12 月 11 日（木） 実施場所 体育館（学校側でパネル仕切りのスペース）
4、ワークショップ実施時間（校時）	第 1 WS、13:30～15:00（5・6 校時） 第 2 WS、13:30～14:15（5 校時）
5、ワークショップ実施者氏名	近藤 作司、北村 博子、斉藤 美代子、柳川 三郎
6、ワークショップ実施内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ 第 1 WS 13:30～13:35 ビジョン 3 枚の副教材を大きな模造紙に書き正面に掲載^(*1)。品川校長による WS 実施の経緯と意義説明及び講師の紹介。 13:35～13:55 ステップ 1 として近藤担当より本 WS 目的及び進め方を説明。30 年後の自分のまちと、かながわのビジョンを具体的なイメージで説明、30 年後は何歳？30 年後の未来は明るいように、一秒が一年を壊す、内容が具体的になるように質問をしながらイメージが膨らむように導入。 13:55～14:20 ステップ 2 としては、学校側の協力ですすでにグループ分け（エネルギー、ごみ、化学物質、そら、みず、みどり・つち）が出来ており、みず、みどり・つち（2 グループ）柳川担当、エネルギー、そら（各 1 グループ）北村担当、ごみ、化学物質（各 1 グループ）斉藤担当にて、まず どんなまちでくらしたいか 副教材 4 ページの絵を描いた。 14:20～15:00 続いてステップ 3 として各グループのリーダーを生徒が決めるように指導し、意見を出し合いながら生徒個人個人がポストイットに簡潔に書き上げ^(*2) 模造紙に貼り付けた。各講師は生徒が書き易いように指導を行い、生徒の自主性の発揮に主眼を置いた。予想を超えて生徒は一生懸命に取り組んだ。又 担任の栗原・石井先生とも、よくグループの中に入ってフォローしていただいた。 15:00 近藤担当より生徒に宿題として、「グループとしてキャッチフレーズ及び自分がやってみようと思うこと」を教材の 5 ページへ書いてほしいとお願いをした。 ・ 第 2 WS 13:30～14:15 ステップ 4 として近藤担当より宿題の結果を見せるように促したが、やってこない生徒が多いと判断して再度指導した（実際には生徒それぞれがキチッと宿題は出来ていた）。各グループ担当の講師はグループごとに個人が書き上げたポストイットをいくつかの島にくくり、グループのキャッチフレーズを目指して指導し、生徒とともに頑張った。 ・ 近藤担当よりテーマのまとまったグループから順にみんなの前で発表するように指導。最初は生徒はもじもじしてすぐには発表できなかったが、柳川担当が司会をして、コメントを加えてから意欲

的な生徒が次から次と出て発表が盛り上がった。

7、ワークショップ実施結果

- ・品川校長はすべての時間を一緒に参画していただき学校側の全面的協力を達成できた。
- ・担任の栗原・石井先生には事前に生徒によく指導していただき最初から興味を持つグループ分けが出来た。
- ・斉藤担当がメインのビジョン3枚を模造紙に大きく書き上げ、正面に掲示が出来た。そのために生徒が全員ともそのビジョンの旗に集まった。
- ・「想像してごらん 2033年、新アジェンダ 21 かながわ」指導用資料の作成が大変役立ち、講師はしっかり理解して指導が出来た。
- ・11分野のうち(エネルギー、ごみ、化学物質、そら、みず、みどり・つち)の6分野の一つでも目標の一步が出来て感激です。予想以上に生徒が明るい未来を生徒自身で作ろうとする気風が生まれて心地よい思いです。しかしこの良いことが家庭で活かせることを願うばかりです。
- ・第2WSはもう1校時欲しかった。

8、ワークショップ以外の打ち合わせ等の実施(実施日、出席者、主な内容)

平成15年11月21日、品川校長と柳川三郎。内容：記者発表資料「NPO等との連携による『子どもたちからのメッセージ』の公表事業に関する事業提案募集について」を県のホームページよりダウンロードし、それに基づいて品川校長へご理解とご協力をお願いをした。

平成15年11月25日、品川校長と柳川三郎。内容：21日に連絡した件について「新アジェンダ21」を詳細に説明を行う。品川校長の本件取り組みの前向きな姿勢を確実と判断。

平成15年11月26日、品川校長と柳川三郎。内容：前日に続いて「子どもたちからのメッセージ」をどのように取り組むか具体的に交渉を行い5年生で対処する方向を確認。

平成15年11月28日、品川校長と柳川三郎。本件は12月3日に県より決定通知のある旨連絡、品川校長は新聞に掲載されることの意義を高く考えておられた。

平成15年12月3日、WS実施直前の打ち合わせ。出席者：学校側 品川校長、栗原先生、石井先生。K・リーダー会側 近藤作司、柳川三郎、斉藤美代子。

内容：・新アジェンダ21 かながわ策定の経緯。

・本WSの目的と意義、子どもたちの描く将来像とメッセージなど。

・地域の特色の出るメッセージが得たいこと、先生方と協働作業をご理解願いたいこと等

今後の打ち合わせ：「子どもたちからのメッセージ」写真または絵の選定など。

[広報部注] (*1) 副教材に描かれている『ビジョン 2033年のかながわ』のイラストを大きな模造紙に描き、正面に掲載しました。

(*2) 自分たちの選んだグループのテーマを掘り下げて、みんなで意見を出し合っていく中で自分なりに表現したい事を書き出しました。

「地球温暖化対策地域推進全国大会」に参加して

廃棄物・リサイクル部会担当 石丸 博司

日時：平成15年12月7日 13:00~16:00

その後別ホールで交流会に参加

・日本経団連 環境安全委員会

地球環境部会長 枘本晃章

主催：環境省・千葉県・全国地球温暖化防止推進センター

2. 基調講演 山本良一(東京大学教授)

会場：幕張メッセ 国際会議場コンベンションホール
会場に着いてびっくり、折りたたみ椅子が並んでいる大きなホール、大勢の参加者で空席を探すのに苦労しました。休憩時間に近藤代表、田口元代表、黒澤広報部長、他数名のK・リーダー会のメンバーに会いました。

「ビジネス、ライフスタイル、政策のイノベーションで立ち向かう地球温暖化」イノベーションを前面にした講演。まず6項目の結論から、目を見張ったのは2番の「京都議定書の運命にかかわりなく、わが国は環境成長経済の実現に全力を挙げて取り組むべきである」。そして4番目「環境成長経済を実現するためには、経済と環境負荷を全力を上げて分離しなければならない。そのためには技術、経営、ライフスタイル、政策のエコ・イノベーションの誘発を絶え間なく引き起こしていく必要がある」など。

主なプログラムと要点：

1. 主催者挨拶 ・環境大臣 小池百合子
・千葉県知事 堂本暁子
・推進センター 運営委員会議長 三橋規宏

・さらに「世界の変化を1秒に縮めて見たら」の項

でいろいろな観点からの問題提起。驚いたのは・CO2 排出量 782 トン/秒 など身近な時間に置き換えて見ると大変リアル感があり有益でした。(参考までに「1秒の世界」山本良一 編集 ダイヤモンド社 952 円 1秒間の变化 60項目、一読を薦めます)

3.「環のくらし」普及啓発アトラクションで、ツートン青木による替え歌「心のこり」や「北酒場」など大変面白くテープが欲しい位でした。

4. 経済界及び地域からの発表(表彰された19団体から下記6団体)

- ・トヨタ自動車、松下電器産業、ミサワホーム、島根県防止活動推進センター、奈良県防止活動推進員、岸和田市温暖化対策地域協議会から。
- ・産業界からトップランナーとして意欲的な取り

組みと成果、どう買い換えるかが課題、地域からは地域の実情にあった取り組み、形に頼らない多様なアプローチなど発表。その後パネル形式でフロアーとの意見交換、時間が足りない。

5. 16:30~隣のホールの全国交流会に黒澤さんと参加。大きなフロアーに全国8ブロックに別れおつまみとアルコールで参加者と交歓。

・われわれのテーブルは神奈川県・東京都・長野県でした。温暖化防止の横山さん、佐藤一子さん、長野県諏訪市の牛山さん、奈良・エネルギーと環境を考える会会長西田さん、推進センター議長の三橋さん等と。多くの方と取り組んでいる課題と苦労話など、意見交換が出来ました。楽しく有意義な時間でした。

部会活動

環境モニタリング部会

部会長 佐伯 秀夫

活動報告(12月~1月)

1. 15年度ジョロウグモ調査活動結果取りまとめ

調査期間:9月~11月

調査データ収集が遅れたため、ようやく「環境マップ」作成終了。

2. 15年12月度NO₂調査結果

定点、幹線道路、測定者の関心のある地点について実施。

KERC「環境実践者支援講座-環境調査コース」の一部受講者が参加した。

日程・11/30 捕集管の組立と配布

・12/4~5 24時間サンプリング

・12/13 濃度測定

調査結果に基づく「環境マップ」作成。

3. 1月例会開催

日時:16年1月24日(土)10:30~12:30

場所:横浜市市民活動支援センター

テーマ: 15年度ジョロウグモ調査結果

15年12月度NO₂調査結果

酒匂川探水隊活動報告

新規部会設立の検討

その他

活動予定(2月~3月)

1.「15年度ジョロウグモ調査「環境マップ」」,「15年12月度NO₂調査「環境マップ」」のホームページ掲載

2. 3月例会

日時:16年3月13日(土)13:30~16:00

場所:横浜市市民活動支援センター

内容: 15年度部会活動総括

16年度部会活動の検討

その他

エネルギー部会

部会長 北村 博子

活動報告(11月~1月)

1. 部会

11月16日(日)14:00~17:00 県民センター

出席:藤木、下條、児玉、青野、吉川、大森、田中、依田、北村

内容:横浜市立芹が谷南小学校省エネ学習実施 神奈川県環境学習リーダー・エネルギー会(以降上記をKELEと言う)を支援。

打ち合わせ

12月7日(日)14:00~17:00 県民センター

出席:藤木、下條、青野、吉川、安藤、大森、依田、北村

内容:・待機時消費電力について

・第1回芹南小学校省エネ学習反省

・第2回[芹南小省エネ学習]打ち合わせ

・「親と子の省エネ教室」打ち合わせ

1月25日(日)14:00~17:00 県民センター

(次頁へ続く)

(前頁から)

2. 対外活動

11月27日(木) 10:20~12:10

横浜市立芹が谷南小学校総合的な時間の学習

対象:4年84名

KELEを支援

参加:下條、青野、吉川、小田、大森、依田、北村

内容:

電気実験、電気測定、エコカルタ取り、省エネカレンダーチェック等。

その後父母会でのお母さん方の意見。【とても良い授業をして貰って喜んでいきます。子どもたちは、家族と話し合い、電気を消して廻って、パソコンまで消されたのには困りましたが。】児童が、冬休み期間中に付ける省エネカレンダーのまとめを次回1月28日に行う。省エネ行動を継続、子どもたちから地域社会への普及を。総合的な時間の学習「省エネ学習」

1月28日(木) 10:00~11:00

「省エネカレンダーチェックとエネルギー消費実態についてまとめ」

3. 講習会

(財)省エネルギーセンター省エネ学習講習会

11月17日(月) 13:00~17:00

参加:下條、北村

内容:学校支援について講義、省エネ学習WS

活動予定(2月~4月)

1. 部会

2月8日(日) 14:00~17:00

場所:かながわ県民センター 604

内容:11回親子省エネ教室打ち合わせ

16年度活動計画

16年度環境展出版内容・企画案等

3月28日 14:00~17:00

場所:かながわ県民センター 602

内容:16年度活動計画

16年度環境展出版内容・企画案等

4月18日(日) 14:00~17:00

場所:かながわ県民センター 602

2. 対外活動

「エコライフ 皆と楽しく始めよう」

第10回「親と子の楽しい省エネ教室」

KELE主催を支援

日時:2月1日(日) 13:30~16:00

場所:神奈川県民センター 604

環境活動報告会

日時:2月15日(日) 10:00~17:00

展示・配布:省エネ冊子(KELEの支援)

場所:かながわ県民センター 2階ホール

「エコライフ 皆と楽しく始めよう」

第11回「親と子の楽しい省エネ教室」

KELE主催を支援

日時:3月7日(日) 9:00~14:00

場所:かながわ県民センター 602

ケナフ部会

部会長 荒谷 輝正

1. 活動報告(12月~1月)

ケナフ部員が携さわった12月~2004年1月までの活動について報告します。

東京ガスさんの企画に協力

東京ガス(株)神奈川支店 総務広報部 広報CSグループ 総合学習 学校支援担当 齋藤昭義さん(9期)からケナフ部会小川さんに助勢依頼があり、東京ガスさんの企画されたケナフの紙漉き計画に基づき3回シリーズで開催されたもので、以下の日程で実施しました。

11/7 横浜市東品濃小学校5年生64名(2クラス)にケナフの紙漉き3回シリーズの1回目

(刈り取り~皮むき~たたき)を実施 小川(既報)

11/27 横浜市東品濃小学校5年生64名(2クラス)に(ケナフのきざみ、粉碎、蒸解、水洗)実施(既報)

2004/1/15 横浜市東品濃小学校5年生64名(2クラス)にケナフの紙漉き実施、各自2枚づつ作り1枚は6年生の卒業記念に絵手紙として贈る予定。小川、荒谷

今回は東京ガスさんの企画に協力するという、我々の初めての経験でしたが、今後企業、学校、ケナフ部会との連携が出来れば、我々の今後の活動に大変役立つものと思っています。

相模原市大北小学校6年生36名にケナフの紙漉き指導

大野北小学校の馬場愛子先生からの依頼で、総合学習の一環として、このクラスはケナフの栽培を手掛けたが指導者がいないので、刈り取りから紙漉き迄指導して欲しいとの依頼があり協力しました。

11/11 相模原市大野北小学校6年生36名にケナフの紙漉きについて3回シリーズの1回目として植物と地球温暖化防止の関係について説明。 荒谷(既報)

12/9、10 相模原市大野北小学校で紙漉き実施(2日)小川、安部、荒谷

12/9 ケナフの刈り取り、キザミ、蒸解

12/10 ケナフの紙漉き

2 日間に各々、5 名程度の保護者に手伝ってもらいました。今後は学校の場合は保護者の協力を得ることで、人手が得られ、また環境についての理解が増進されると思いました。

なお、後日、学校から児童の作文が 3 人、当日のビデオ、写真が届けられ楽しい思い出になりました。

ました。

1 月 25 日 ケナフ部会例会

ケナフの刈り取り、次年度に向けての計画、環境展の準備等の打ち合わせ

2. 活動予定

3 月からは、実質的に新年度の活動として、圃場の整備、畑起しを始めます。

廃棄物・リサイクル部会

廃棄物・リサイクル部会担当 石丸 博司

活動報告(12月~1月)

例会 12 月 9 日(火)

出席者：内藤さん、黒澤さん、高田さん、石丸

主な課題：

環境教育ビデオ・CD 等の検討

エコロジカル・フットプリントについて高田さんからわかりやすい説明。世界中の人々が日本人と同様の生活をするに地球の面積は 2.7 倍必要になる、といった生きている地球の指数。人間一人あたり 2 ヘクタール必要。ますますわれわれの活動の必然性が重要であると実感、資源活用の生産性向上とエコライフ推進が急務。

詳しくは会報 35 号をご覧ください。

情報：県の県民部消費生活課から「誰でもできる環境にやさしい暮らし実践マニュアル」作成受託。部会で昨年来取り組んできた「エコライフ健康診断」が実ってきたものです。年末より K・リーダー会の受託事業としてプロジェクトチームを編成、鋭意進行中。別記事ご参照下さい。

例会 1 月 14 日(水)

出席者：上野さん、内藤さん、岩田さん、

市川さん、高田さん、鎌田さん、石丸

主な課題：

新年に当って各自の近況とこれから

親子で楽しむ環境展の内容

部会とし取り組む課題と方針

夏以来取り組んできた部会の課題に関連する勉強会・生ごみの堆肥化。ゼロウェイストの動向と課題。エコロジカル・フットプリント。拡大生産者責任(EPR)と容器包装リサイクル法の問題点を踏まえて。

(1) 容器包装リサイクル法改正に向けた国会請願署名は、改正上の課題や検討過程がややあいまいな点があり見合わせることにした。

(2) 環境展に向け部会として 4R の観点から取り組むことにした

Refuse(不要なものは買わない、拒否す

る) Reduce(ごみを減らす、排出抑制) Reuse(再利用、永く使う) Recycle(リサイクル、素材に戻す)の中でバックエンド(出口、後手)よりはフロントエンド(入り口、先手)にウエイトを置き展開していくことになった。特に上記 印にスポットを当てて取り組む。以下がそのキーワードです。

Refuse マイバッグ運動、断る勇気(過剰包装・レジ袋) 計り売り商品を積極的に買う、過剰包装商品を買わない、無農薬の農産物を買う、生産者の顔が見える商品を買う、地産地消、計画的な買い物をし無駄なものを買わない。

シンプルライフ

Reduce 生ごみコンポストによる堆肥化、リターナブル容器、詰め替え商品の購入、エコマーク・グリーン購入の推進。

次回会合時、上記のキーワードを絵にしパネルにしたい。参考になる絵やスケッチ、写真など持ち寄る。このパネルは 2 月 15 日の環境展に展示の予定。

(3) 部会としての活動として以下の 2 点を取り上げて推進していきたい。

1) マイバッグ運動

2) シンプルライフの推進

・次回の会合でさらに検討する。

活動予定

上記のテーマ・活動を継続していく。

会合：例会の日程を 1 週間早めて下記日程にしました、よろしくお願ひします。

2 月 3 日(火) 13:30~17:00

3 月 2 日(火) 13:30~17:00

会場：えびな市民活動サポートセンター

第 1 会議室 TEL 046-235-0835

関心のある方ご連絡ください。

参加お待ちします。

石丸 博司

E-mail isimaru@rd6.so-net.ne.jp

〒259-1114 伊勢原市高森 4-7-14

TEL/FAX 0463-94-8187

= 豆知識のページ =

身の回りの製品・部品の信頼性を支える 環境試験について

11期 泉重郎

環境学習リーダー会等にて取上げる「環境」とは、一般的には自然環境を意味する言葉として認識されていますし、多くの消費者も同じ考え方をしており、過去に色々な製品を生み出し生産する電子・電気工業分野でも環境とは、自然環境を意味していました。しかし、最近ではそうとばかり言えなくなってきました。すなわち急速な工業技術の進展と開発によって生まれ、消費者に提供される多くの工業製品は絶大な利便性と物質文明をもたらしましたが、その反面で地球上の自然環境にも大きな変化をもたらし、この変化は地球的な規模による社会問題を誘発するようになりました。

このような環境変化のなかで使用される工業製品は、地理的な位置によって決まる広域環境や季節的な気候変化などの屋外環境から、人為的で非周期的な局所的屋外・室内環境変化に曝される機会が多くなりました。次に身近な例を 2、3 挙げて説明します。

電子オープンレンジのお隣の家電製品は、運転で発散される熱で局所的に熱的環境変化を直接受け取ります。また、空気調和された室内では、空調装置の運転開始時と停止時に急激な湿度変化に曝される事も起きます。乗用車を例に挙げますと、真夏の駐車時はフロント、リアー共に 80 度以上になります。発車時は窓を開けてクーラーを目一杯効かせる事も有りますが、この時車室内の車載機器は急激に快適な室温に変化します。一方フロントパネルの表示装置の裏側はエンジンルームにて温度は 100 以上にもなります。快適な室温への移行と過酷な高温の間にフロントパネルの表示装置と電子機器は曝されます。冬のスキー駐車場に置き換えますと快適な室温への移行と過酷な低温の間にフロントパネルの表示装置と電子機器は曝されます。この駐車場の環境変化は温度・湿度・



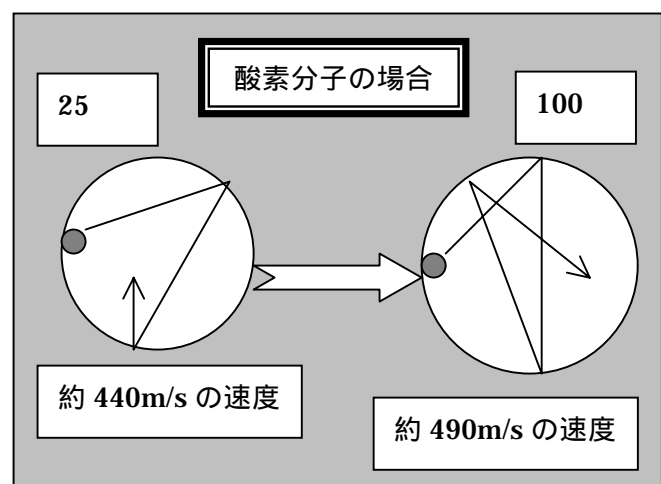
振動が組合わさった複合環境（2 種類以上のストレス因子が同時又は交互に加わる）による影響に対して、製品・部品の使用環境に対する信頼性・安全性の保証を評価する事（環境試験）が必要となります。

温度と湿度の物理的な性質について簡単に説明しておきます。

温度は熱エネルギーの一つの指標にて何らかの物質を介して具体的な大きさを、すなわち熱エネルギーの量とその変化の大きさを温度計や熱量計にて知る事ができます。一方、湿度は乾燥空気と水（水蒸気）との組合せの程度を指標化したもので、その時々々の温度の高低によって様々に変化します。ところで物質の温度が高くなると、物質を構成している分子の動きが激しくなり、逆に低くなると分子の動きは鈍くなり、極端な低温（ -273 ）近辺では分子運動は停止します。

気体の分子運動について説明します。

一個の酸素分子の真空中での速さについて下記の図 1 により説明します。温度が上昇すると、その動く速さはより速くなっていきます。すなわち、気体の温度が高くなると、気体の持つ運動エネルギーは大きくなる。これは分子運動が激しくなる事になります。



気化と膨張（液相から気相）について

水が加熱されて水蒸気になる現象が気化(蒸発)ですが、この液相から気相への相転移過程では体積膨張を伴い、この現象は気化膨張と呼ばれています。この現象が閉じられた（密室）部屋で生ずると内部圧力と温度の関係によって温度に比例して内部圧力は増加します。例えば 0、1 気圧において 1cm³ の水が気化すると 1,240 倍の体積に膨張します。蒸気機関はこの性質を応用したものです。

氷結と膨張（液相から固相）

氷結による体積膨張は気化膨張に比較して少なく、温度依存性も少ないと言えます。例えば 0、1 気圧において 1cm³ の水が氷結すると体積は 1.09 倍になります。

温度の化学的性質と利用した環境試験

温度を指標とする熱エネルギーは物質そのものではないので直接化学反応をするわけではないが、熱は物質に流れ込んだり、離れたりあるいは物質の物理・化学反応の過程で生まれたり消滅したりして物質の構成分子の動きを激しくしたり、緩めたりします。この事を利用して環境試験装置とは、

外部は冷蔵庫以上に断熱された密閉された空間で、正確に（0.5 単位）で -55 から +180 までの何れの温度もその空間にて温度制御し、温度を変化させ、この装置内（恒温槽）に試料をセットして、製品・部品が使用環境と輸送物流環境にて信頼性と安全性を保障する品質保証試験を行います。

環境試験の必要性としてのまとめ

製品の故障は、一般的な観点から見ると製品に使われている材料物質固有の劣化原因が外部からの物理的・化学的要因と組合わさって起こり始める。そして製品・部品自身の周辺に加わる環境ストレス因子の影響を受けて、劣化の速度が加速されて、反応する物質が消耗して機能が劣化、あるいは停止して、故障となる。その中でも温度と湿度と振動は電気・電子製品の携帯機器や自動車の信頼性と安全性に大きく関係している。



新会員(11期)の広場

自分に出来る具体的活動を求めて

11期 安藤 紘史

趣味の野鳥を通じて、自然の大切さと環境の荒廃について感じておりました。

サラリーマン卒業を機に、環境問題について系統的に学びたく、環境実践者養成講座に参加させて頂きました。(併せて、環境調査と地球温暖化防止コースを受講する機会も得ました。)

お陰で、現状に関する情報や体系的な考え方を得ると共に、先進的に活動しておられる先輩方の情熱にも触れる事ができました。

特に子孫に対して、環境破壊という現状だけでなく、大変な負債（膨大な借金、何時かは産業廃棄物となる建造物、挽回不能な濃度迄排出した大気中の CO₂、蔓延する浪費文化・・・）まで残そうとしている事を思い知らされました。

そして、たとえ微力でも環境問題を自分のライフワークにすべきだと痛感しました。

今回加えて頂いたモニタリング部会、エネルギー部会を初め、色々な場に参加させて頂き、「自分に何が出来るのか、何が役に立てるのか」を求めて行きたいと考えております。

一方、自分を振り返ってみると、活動母体となる地域社会との関係においては、5 軒先の住人の顔も怪しい会社人間で過ごして来ました。この課題も活動を通じて徐々に解決して行きたいと思えます。

今年はサル年だけに、これらの課題に「再勇気」で望んで行くつもりです。

どうぞ、宜しくご指導ご厚誼くださるよう御願い致します。



自然観察愛好者から 地域の環境保全と改善へ

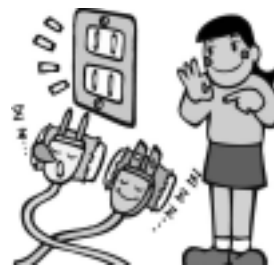
11期 泉 重郎

企業人として後半の13年間を家電製品から自動車に使用されている製品・部品の信頼性評価試験装置の営業技術と開発設計を職務とし、現在は技術顧問として身を置き、代表的な環境因子(温度・湿度・振動)の組合せによる品質保証の試験方法と効果について各地にて講演も行っています。私の会社はその製品の性格から環境マネジメント企業活動には非常に積極的で、製品サービスの環境改善(省エネ・省資源・リサイクル)事業所での環境管理活動(ISO 14001の維持管理)及び社会貢献(地球環境研究・技術基金、フロン回収、鉛フリー、植樹活動)を行なっています。企業人として大阪(本社)京都と宇都宮(工場)及び海外も含めて飛び回らる中で、土日祭日を比較的自然に恵まれ、田舎の雰囲気を残すこの地でリフレッシュするようになりました。

数年前からは出勤前のウォーキング、土日祭日

の1時間以上のウォーキングと自然観察が習慣となってきました。この数年間を振り返りますと、この地の自然散策とウォーキングの場所が変わり、最近では目久尻川の吉野橋から道庵橋を経て下流の用田橋までの川辺がポイントとなってきています。思うに、田舎の雰囲気自然が何らかの理由で変えられ、壊され、手を加えられ、癒しの喜びが得られなくなったからだと思います。

今年度7月よりセミリタイメントの技術顧問となり、自由になる時間も増え、県の環境科学センターの環境実践者講座を受けながら、企業人としての環境全般への関与から、一市民として環境保全と再生を身の回りの出来る事、必要とされる事から地域シニアの方々の活性化も含めて実現したいと思っております。



地球温暖化防止活動 を始めるにあたって

11期 香川 興勝

平成14年小田原市が主催する「エコアップリーダー養成講座」に出席して、地球温暖化による環境破壊は、従来の環境問題とは異なって、“市民が加害者であり被害者”の環境問題で国民1人ひとりの意識の変化や取り組みが期待されていること、さらにオゾン層破壊・自動車の排ガス・ゴミの焼却・森林破壊など多くの問題が関連していることから、今後取り組んでいくには格好の課題であると考えた。

講師の方から紹介いただいた参考書を読み、インターネットで環境省・(財)省エネルギーセンターやJCCCA他のホームページを調べ、情報を得るには事欠かない分野であることも理解できた。

しかし、温暖化による環境破壊は現実の問題となりつつありますが、雑誌、新聞やテレビなどで騒がれる割には、防止のための実践活動が少ないという印象を受けた。

そこで、神奈川県の実践状況を知るために、平成14年度環境実践者支援講座「地球温暖化防止

コース」を受講したところ、種々な技術的情報とともに、素晴らしい実践活動をしている方々がおられること、そして温暖化防止について討論出来る友人も得ることができた。

長い間、民間会社で新製品、新技術の開発に明け暮れてきた私にはまったく新鮮で、良い意味での異文化を感じる世界です。それだけに興味津々です。

小田原では、行政と連携して省エネナビやワットアワーメーター等を利用した家庭における消費電力の削減や市民の環境意識の向上支援活動などを実施中です。

今回、環境実践者養成講座を修了し、環境学習リーダー会のエネルギー部会、地域活動サポート部会に入れていただきました。楽しく頑張りたいと思っています。先輩および同期の方々のご指導とご協力をお願いいたします。



K・リーダー会に入って

11期 鎌田 英光

勤めをやめ毎日が日曜日となり、日々を読書やテニスなどで過ごし、時に講演会に出かけることもあるそうしたある日、ふと県広報「かながわ」を手にし、今回の「環境実践者養成講座」に参加することになった。

これまで真剣に考えなかった環境問題についていろいろと学び、反省させられることばかりであった。

水俣病にしる、四日市公害にしる、或いはダイオキシン、化学物質汚染また森の破壊にしる身近に起きており、皆が気がついて騒ぐときには既に取返しのできない段階にきているのである。

現在、地球温暖化問題などが議論されているが、今こそ正に従来の経済、生活優先による環境破壊を押し止め、また早急にその修復をすべく決意をする時であろう。

安全で、健康な生活環境を子供たちの未来に維持し続けていくためには私たち一人一人が環境の変化に注目し、行動していかなければならないのではなからうか。

一般的に、気がついていても行動しない。一人の力には限界もあろう。

環境講座で学んだ私たちが、集合し行動を起こしていくことが力となり、生活環境を変えていくことになるのではなからうか。

こうした面で、環境学習リーダー会が一つの中核となり発展していったと願っている。

講義を終えたばかりで、活動状況もわからないが、今後諸先輩のご指導、ご支援を頂きながら自分にできることで僅かでもお役に立てたらと考えております。



こんな活動をしています

11期 進士 幸子

11期 根岸 堯子

私たちは、もともと地域の市民グループ「ふるさと環境市民の会」に所属し、今まで活動してまいりました。たとえば、目久尻川のウォッチングと清掃、親子環境教室でソーラークッカーやマイはし袋製作、また地球温暖化、グリーンコンシューマー、環境先進国ドイツ、スウェーデンの取り組み等をテーマとした小・中学校への出前講座など...。活動するにあたり実践には理論的な裏付けも大事と考えこの度の環境実践者養成講座を受講することにしました。

環境問題と一口に言っても、個人から地球レベルへと幅広く多岐にわたり、どこからどのように取り組んでいけばよいものかと考えさせられますが、この受講を機に、今までやってきたことをさらに継続させていくことが大事だと改めて感じました。「考えは地球規模で、行動は足元から」を会のモットーに「今、わたしたちにできること」から取り組んでいます。



最近の活動の一部をご紹介します。

・2003年11月～

日本の環境首都コンテスト

自治体の環境施策を推進し、「日本のフラインブルク」と呼べるような自治体を住民と共に創ることを目的とし、10年にわたり実施中、3回目神奈川県担当

・2004年2月

こどもアジェンダ21

綾西小で実施予定

・2004年3月

太陽とかぜの学校、竹トンボとばし大会

太陽とかぜのエネルギーについて子供達と一緒に学ぶ

グリーンエネルギーで地球を元気にしよう

・その他

不法投棄のゴミマップづくりや川の清掃、ホタルの保存等、地域に密着した環境保全の啓発と活動を行っています。

掲示板

2月15日(日) 第10回 市民環境活動報告会開催
実行委員長 石丸 博司

K・リーダー会の皆様、お蔭様で10回目を迎えます。御誘い合せの上ご参集下さい。かながわ県民センターにおいて、時間は10:00から16:10まで。その後交流会を予定しています。詳しくは同封のチラシをご覧ください。

尚、当日映画館上映用の「かながわニュース」からの取材が入ります。県内34映画館で3月に上映が予定されています。またこれに先立ち、2月4日(水)午後3時35分から、ラジオ日本(1422kHz)『くつろぎワイド 夏木ゆたかのほっと歌謡曲』の1コーナー『取れたて神奈川情報』に会の実行委員長として石丸が出演します。ダイヤルをお合わせ下さい。

また報告会当日は各部会のパネル展示も予定しています。皆様のご来場をお待ちします。



映画「かながわニュース」用に市民環境活動を撮影している現場

こどもエコクラブサポーター・環境教育指導者
研修会

県主催の下記研修会への参加者募集が行われています。

同封のチラシをご覧ください。
日時：16年2月21日(土)14時～16時30分
場所：横浜市青少年育成センター研修室
(関内ホール地下2階)

内容：森林保全に関する話と間伐材を活用した工作
活動事例発表及び意見交換会

対象：こどもエコクラブサポーター
小中学校教職員

環境教育・環境学習に関心のある方

申込み：2月16日まで

挿絵担当者募集

広報部

会報の題字左脇のカット(絵)と説明は森千春さん(7期)が3年前から担当していますが、森さんの担当は次号で終了になります。

次々号から担当していただける方を募集します。

なお、今までは季節の花を取りあげていましたが、次々号からは季節の花に限定しません。

連絡先：広報部長(本誌末尾参照)

担当対象：何を対象に担当していただけるかを申し出てください。

(例：季節の花・鳥など)

広報部員1名増加!

更に部員を募集します!! 広報部

広報部にこのたび、11期の泉重郎さんが加わり、早速会報の発行に参加いただきました。皆様、よろしくお願い致します。

尚、広報部では下記の通り部員を募集しております。皆さんの新しい風を、会報に、そしてリーダー会に吹き込んでみませんか。たくさんの方の皆さんの応募をお待ちしております。

担当の役割：

- ・会報の編集企画
- ・会報記事の取材
- ・会報紙面の作成(パソコン操作)
- ・会報の印刷、発送
- ・HPの作成・更新

募集期限：いつでも受け付けます。

連絡先：広報部長(本誌末尾参照)

編集後記

今年の元旦は初詣には行かず、地元秦野の「弘法の清水」へ行った。「秦野盆地湧水群」は、昭和60年1月に環境庁選定の全国名水百選に認定されたが、平成元年1月に「弘法の清水」が、テトラクロロエチレンに汚染されていると判明し、以後市をはじめとする関係者による懸命な努力の結果昨年1月には、秦野市の地下水の浄化目標を達成し、引き続き2年間水質が安定しているため、今元旦に「秦野盆地湧水群」の名水復活宣言となった。環境の悪化が取沙汰される中、官民あげての努力で自然の復活に近づいたことが、今後の地球環境にとって正夢になって欲しいと期待している。

広報部 黒澤 宏

発行人：神奈川県環境学習リーダー会

代表 近藤 作司

編集人： 広報部長 黒澤 宏

TEL/FAX 0463-88-5193

発行日： 2004年1月31日